

# 時事新報

明治十八年二月十六日  
第八百九十三號  
日曜日休刊

東京府知事芳川顯正

○東京府知事芳川顯正  
東京府知事芳川顯正  
明治十八年二月十四日

## 時事新報

朝鮮使節來

朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

○朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

○朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

○朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

ノ諸政ニ參與シタリ去年十二月ノ變ニ一度朝鮮政府ニ  
仕官スルヲ止メテ元ノ日耳曼人ニ立戻リタルガ間モ  
ナシ又同政府ニ仕官セテ再ビ外衙門協辦ト爲リ今同返  
日本修信副使ノ大任ニ當リタルナリ韓氏ハ年約四十未  
滿ナリト云フ

○朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

○朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

○朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

○朝鮮使節來  
朝鮮使節來  
朝鮮使節來

○轉任昇進 豫て噂のありし如く一昨十四日上野特命  
全權公使は元老院議員に任じ年俸金四千圓下賜の旨仰  
渡され西園寺參事院議員は特命全權公使に任じ上野氏  
の後任として瀧國雄也納府駐節を仰付られたり又同日  
獨國伯林府公使館在勤の書記生細藤次氏は瀧國雄也  
納府公使館附書記官に任ぜられたり

○出資延引 前號の紙上に長與衛生局長は一昨十四日  
出資し熱海に赴くよしを記載せしが都合より延  
引し来る廿日出資の善なり

○出張 加藤銀行局長は近々大坂地方に出張の都合な  
りと

○官廳電報 村井砲兵中佐は本月九日砲兵局長長補  
する旨、永峯内務少書記官の同十二日内務省より於て戸  
籍局勤務に任津文部少書記官の同日文部省に於て報  
告局勤務を飯山五等驛遞官の同十三日驛遞局に於て田  
中五等驛遞官病氣中庶務課長兼務を群馬縣士族連水堅  
實氏の同日農商務省より於て同省兼務任御用掛(月俸金  
百五十圓)富岡製絲所長を就れり仰付けられたり

○招魂祭 故愛知縣令國貞藤平氏の追福の爲め在京の  
知友が本日愛宕町の青松寺に於て招魂祭を執行し夫よ  
り紅葉館に赴き祭酒を傾くるよし

○海軍使事 各華族の子弟の現に陸軍に従事して已に  
豫備士官學校の設けある海軍には未だ従事する者少  
きが爲めこの程より有志者の發奮にて海軍に従事すべ  
き方法等を協議し居るよし

○上京 義に造神宮御用に付き上京仰付けらるる神  
宮在勤内務省兼務任御用掛木本氏好氏に去る十二日上  
京したり

○判士轉免 東京鐵道軍法會議判士藤野歩兵大尉同  
中島同中尉判士を免せられて近衛第一隊隊第一大隊  
附に又同隊附栗原歩兵大尉、石原同中尉判士を何れ  
も去る十三日命せられたり

○藤袴内侍 姉小路内侍には一兩日前より麻疹に罹り  
しが輕微なるを以て自宅へ下るゝ及をすとして宮中の別  
殿に於て治療中なりと又他の女官中にも未だ該病に罹  
りしことなき人々も多かる由にて醫師山科元行氏に  
診察を命せらるる同氏は昨日今日を伺候し居るよし

○クニツヒンダ氏 地理局御雇通人クニツヒンダ氏  
は官舎の焼失なせしが爲め去る十三日より當分采女町  
の精養軒へ仮住居をなせり

○旅順港の警備 以就てハ屢に記載する所ありしが猶  
は聞く所より支那政府は近來大なる警備を盡力し  
新た多數箇所の城砦を築き六砲より十八砲位の大砲十  
四門を裝置し其外水雷火、水雷艇等を充分に備へたれ  
ば目下渤海灣中最も堅固なるものと考へたるよし又同  
港口を防禦する巡邏艦二艘はアイムストロング會社に  
く新造せしものにて各二十五砲の大砲數門を備へ一時  
間に十六海里を航行し又別に小汽船二艘ありて各三十  
八砲のアイムストロング砲一門を備へると云ふ

○新嘉坡の局外中立布告 香港の太守サー・ヘンリー・

○英佛海軍甲鐵艦の比較 四箇國の甲鐵艦を比較し  
遠く及ばざる所存なるを  
揭載す

○英佛海軍甲鐵艦の比較 四箇國の甲鐵艦を比較し  
遠く及ばざる所存なるを  
揭載す

○英佛海軍甲鐵艦の比較 四箇國の甲鐵艦を比較し  
遠く及ばざる所存なるを  
揭載す